の.

12月22日.

先発隊として、沢田、南川、若山の三名は名古屋より、石原氏は新宿よりと、東西呼応して夜行に乗り込む。

12月23日. 雪.

松本にて四名合流、島々に着く頃より、激しい雪となる。バスにて沢渡に至る。吹雪の中、膝迄もぐるラッセルと背中の重荷にあえぎ、今日は坂巻泊と定める。

12月24日 曇時々雪.

昨日、我々の後を追ってラッセル車が入ったのであろう。中の湯迄快適にラッセルされた道にピッチがはずむ。釜トンネルでスキーを着ける。大正池に達すれば、残念にも穂高の稜線はガスに覆われているが、矢張り、なつかしい山々だ。冬山への気分が急に湧きあふれる。
ホテルにて昼食后、我々の荷物を整理し、明神徳沢へと向う。小梨平はすっかり雪に埋もれ、あの賑やかな夏の面影すらも思い浮かばない。
明神の吊橋が強風の為、橋板がはずれてしまっており、途中より河原に飛び降りる。
夜、パタパタにて舌打ち、素敵なクリスマスキャロルに聖なる夜をたたえる。

12月25日. 雪

今日は松高ルンゼ下迄荷揚の予定で、小屋の裏より夏道通り森林帯をしばらく行き、河原に出る。これを奥又白出合迄つめる。全員快適で、河原伝いに、スキーを脱いで~~右岸~~左岸ガレーの手前で左側灌木帯の小道に入る。急な登りとブッシュになやまされ、各人の足どりもようやく、ばらばらになり勝ちである。灌木帯を抜け、右側、上の大岩の所をデポ地と定め、長居は無用、一気に降る。出合に達する頃より吹雪が物凄くなり、雪ダルマとなって小屋にころがり込む。

12月26日 雪.

快適な徳沢園を後に、いよいよ奥又白へと向う。馬力をかけて荷物をかついだ為、昨日とは打ってかわったピッチで進む。昨日のシュプールは消されていたが、出合を過ぎた頃より輪かんの跡がえんえんと続いている。先を越されたかと気にしながら登って行くと、ラッセルは途中で分れ、八峰側へ移って続いている。多分大阪市大のパーティーだ。昨日のデポ地に天幕を張り、のんびりと、装備の補修に始める。
松高ルンゼ下のデブリは少いが、残りの荷上げの為、安全第一と中畠新道にラッセルをつける事に定める。

12月27日. 曇后雪.

沢田、石原氏、若山、宝の木迄の荷揚、南川、風邪の為、天幕にて休養。

②

流石がにこのラッセルは厳しい。ガスに閉されて中を、一時、身体を一センチでも前へと努力が続く。ようやく環不端を抜け、窓の木を左横に見て、~~[illegible]~~トラヴァースに移るラッセルに、若山が驚異的な馬力を出す。左手に持ったストックを水車の如くふり回し、胸のあたりの雪をかきわけかきわけ、窓の平へと進む。全く閉口だ。くたくたに疲れ、感激もあったものでない。荷物をほり出し、天幕へ降る。夕刻、明神（下から あまがけ）~~[illegible]~~方、しきりに、~~雪崩の音が~~遠雷の如き雪崩の響きが~~[illegible]~~耳にしげい。

12月28日 曇.

今日は停滞で、若山は今日は休養の番。出発の準備も終え、天幕の外に飛び出した途端 アラミ1の声が入る。部隊長だ。こんな朝方に来るとは めずらしい事だ。
~~今日は~~部隊長も、休養することにして、三人で出掛ける。昨日のラッセルのお陰で、ピッケルははかどる。二時間少しで~~[illegible]~~窓の平に到着する。前穂側は全然見えぬが、四峰は下半部を、のぞかせ、挑戦しているかの如く、我々のファイトをかき立てる。
今年はまだ雪が少いのであろうか、蝶、大滝の山々も、すっかり冬装束では覆われていない。のんびりと楽しみながら 再降りに移る。
~~[illegible]~~いよいよ、待望の又白池での天幕生活に入ったが、~~[illegible]~~此の半年、夢にまで描いた冬の奥又白、しかも~~[illegible]~~黒々と雪をも許さぬ岩壁に囲まれながら。
夜、久し振りに部隊長を迎え、~~[illegible]~~、明日よりの期待に満ちながら、大いに語りは弾む。

12月29日 雪.

天幕を撤収し、スキー其の他をデポし、池へと向う。中畠新道のも、三度目ともなれば、国道級で、呼吸を整え整え、ゆっくりと進む。池へ着けば設営作業で、10日間の生活だ、快適に張ろう。ブッシュも沢山~~[illegible]~~敷いて。
またたく間に、六人用ウインパー一238張見事に張られた。夜中より、ぐんと冷え、冬の星が輝き始める。一応明日の準備にかかる。

12月30日 曇.

余り感心しない天気で、而しB沢と東岩のラッセルと、偵察を兼ねて 9時半、石原に、石丸と大田は出掛ける。思ったより雪がしまっていて、ラッセルの苦労も少なく、B沢に入る。狭いB沢下部を突き突き登って行く。右岩稜、北壁の積雪状態は非常に少い。北壁直下迄つめて、しばし北壁を凝視している途端、頭上Dフェースの上から雪のブロックが落ちて来、あわやと思わせたので、~~[illegible]~~ほうぼうのていで天幕に帰る。午後休養、お好み焼を始める。豊富に持ったレバーも心強い限りだ。

12月31日 雪.

終日だ、雪はしんしんと降りつづいている。夕方、喜井兄弟の天幕に到着す。昨日、中畠新道下部でビヴァークを余儀なくされていたそうだ。而も、明神の岩壁で東雲の方が遭難されたという報せ（もってこ。）一体何時になったら青空の見える事だろう。明日で9日目も~~[illegible]~~これで終りで~~[illegible]~~、2日には若くは帰宅せねばならない。

ⓐ 高井君の天幕着の日 これで良いですか？ 三十日 天幕着ではなかったですか？

③

1月1日. 晴.

詳しくは 山岳会報,

三時半起床, 六時天幕発. 石原, 若山, 沢田の order. 7時30分. B沢上部でアンザイレン
8時 七人隊 取付. 11時. スノーリッヂ. 15時10分. 第二テラス. Aフェース直下.
17時半. B.P 地点. 19時. ~~B.P~~ ビヴァーク.

・テント人員 石原兄, 高井兄弟, 南川, 上岡さん. 13時. テントに到着。
・高井兄, アタック隊の帰りがないので, 夕刻. A沢下迄で行くも連絡とれず？

松田, 北川, 宮, 森, 太田. 名古屋発.

1月2日. 雪.

・8時行動開始, 石原トップを若山に交代(9時), 9時20分, スリップ, 墜落, 若山墜落現在位置
天幕に向って救援依頼「了解」の返事。1時30分. 高井兄と連絡がつく。

テントでは。石原兄, 上岡, 高井兄, (外大より)東陸隊の ~~来~~ 下に出発. 途中救援依頼の報せを受け, 高井兄, 上岡は更に登り 第二尾根で石原, 沢田と連絡がつく。
石原兄は直ちに天幕に下り 高井弟をつれ, 救援隊の依頼にホテルに下る,
途中 中尾新道にて 南西登高会の方に, 更に徳沢にて早大O.B. 三名の方に救助を依頼
上高地より 神戸に電話及び電報にて連絡, 硫黄にいる後発隊に連絡。
高井兄, 上岡は ラッセルの重荷と, 時刻の遅いのにより, 天幕に引返す。
南川, テントキーパー,
名古屋にて, 松田, 宮, 森, 北川, 太田, 遭難の報せを受け, 直ちに 出発の松田, 太田 森を残して, ホテルに着る。
南西登高会 2日池に B.C 設置。 西糸屋に名人上高地で救援の依頼を受け徳沢。

1月3日 雪.

・10時20分 ガスの切れ間より, 天幕よりラッセルの跡がくっきり見え, これを(など)追っていけば, 四つの黒点が, (AIR)岩に向っている. 14時, 高井兄が, 頂上よりアップザイレンで降って下る.
石原弟 救助の為 沢田もB.Pをあとにする. (14.40分)
17時前后. 相ついで, 天幕に迎え入れられる.
・上岡, 高井兄, 五時天幕発. 途中 ラッセルに苦しめ, 登行会3名, ~~[illegible]~~ など
徳沢よりの西糸屋 2名, 早大O.B 3名に追いつかれる. 頂上より 2名を引揚げ, 天幕に降す.
上岡, 高井兄は 後始末の為, 少し遅れる。
・森, 宮 池のBCに向うも, 途中 道を誤り 思わぬ時間を喰い 16時頃着く,
・松田, 太田, 石原兄, 高井弟, 徳沢へ. 北川は 宿泊場のキーパーに.
・石岡, 赤三木, 三林, 新井, 早朝名古屋発. 松本で 金子さんを依頼し ホテルに(行) 24時着
・清水 夜行にて新宿発.
・西糸屋, 早大の方は 徳沢に降された.

④

1月4日、晴後曇、

石原弟、沢田、は 登高会 堀井氏に凍傷の治療を受く。 10時頃、

石原兄、松田、太田、三林、小林（[illegible]）高井弟、天幕着、~~[illegible]~~ 岐阜隊に連絡後 ~~[illegible]~~ 赤沢へ下る

~~[illegible]~~ 宮早稲田連絡の為、下山、ホテルより再び徳沢迄上り ~~[illegible]と共に[illegible]下る~~、

11時、高井兄、上岡、森、小林 高井弟は沢田、石原弟を降ろす。松高ルンゼは尻セードで降ろし、それより沢田は、~~[illegible]~~ ルンゼ下で一諸になった新井も加えて、かわるがわる皆の肩に おぶさり、夕刻 徳沢園に到着。

石原兄、松田、太田、中川、三林 は 若山の捜索を続行の為 天幕に残留。

石原兄、松田、午后 B沢に捜索に行くが 空しく引返す。

赤岩、鎌田氏、小山氏 それに夜遅くついた[illegible]は 徳沢園により、沢田、石原の凍傷の 治療を施す 24時迄。

石岡はホテルにて神戸及びたえず連絡をとる。

中道、佐藤、西川、黒田、浅井、毛利、大比氏、岩瀬氏 三宅氏、若山氏、名古屋発、夜行。

1月5日 曇後吹雪、

又白池の天幕 捜索隊は猛烈な雪に一日休養。

小山氏、山本~~[illegible]~~氏、森、捜索隊に合流する為、天幕に上ろうとするも 中畠新道の猛 ラッセルに引返す。

上岡、赤岩、清水、高井兄、小林氏、鎌田氏、新井は石原弟と そりにのせて沢田を ホテルに降す。11時、ホテル着。 それより ~~徳沢園に帰る予定~~ ホテルへ。

ホテルにて神戸との連絡を取り、凍傷の治療の急を要する沢田 ~~[illegible]~~ を取りあえず 降し、石原はしばらく ~~[illegible]~~ ホテルで静養することにする。

赤岩上岡、清水、高井兄、鎌田氏、~~[illegible]~~、に新しく応援の太田、小松両氏に引かれて 沢田と1時出発す。ホテル前広場にて、毛利、浅井、西川、佐藤、三宅氏、若山氏 と出会い、毛利、浅井、西川、佐藤は直ちに そり隊に合流、下る。

更に大正池附近で、中道、黒田、大比氏、岩瀬氏と出会い、大比、岩瀬氏は 共に降る。猛吹雪の中、連日のアルバイトに疲労甚だしく、全員くたくたに なって沢渡 西村屋に着く。17時。

19時、松本よりの迎えのハイヤーに、上岡、赤岩、高井兄弟、沢田、鎌田氏、岩瀬氏 大比氏の10名乗り込む。 他は西村屋泊。

、宮早稲田 下山。中道さん一行と雲内の滝で会う。

、中道、黒田、三宅氏 若山兄弟、ホテルへ。中道さんは石原の凍傷治療を施す。

沢田は、松本信大病院で治療の後、一同と共に0時40分、名古屋行に乗り込む。

1月6日、雪、

~~小山氏 他~~ 又白天幕 撤営、

三宅氏若山兄弟、下山、 佐藤、西川、電汽車にて帰神、 上田、伊藤、森、夜行にて[illegible]

小松氏太田氏、清水、新井、毛利、浅井 沢渡よりホテルへ。 石岡黒田、西川、中道、石原のホテル 森

沢田、名大病院入院。